

## 白山道奥公園愛護会通信

### 公園の花シリーズ：トサミズキ (土佐水木)

公園の広場の片隅に控えめに佇んでいる低木が今淡い黄緑色の花で満開です。小ぶりの花房が真下を向いているので花だとは気づかず、淡い緑の若葉が出始めたのかな、と通り過ぎてしまう方が多いかもしれません。この木の



名前はトサミズキ(土佐水木) : 「土佐の高知に生えるミズキ(水木)」が由来です。

「水木」は、早春に枝を切ると多量の樹液が出ることから来ています。高知県の蛇紋岩地帯にのみ自生する落葉低木で、3月半ばに黄色い穂が垂れ下がったような花を咲かせます。自生のものは環境省から「生息条件の変化によっては絶滅危惧種に移行する可能性のある」準絶滅危惧種に指定されていますが、木自体は丈夫で樹高も高くないために公園等によく植えられています。花言葉は「清楚」。公園で絶滅させないように大事に育てましょう。



### 公園の花シリーズ：ツバキ (椿:赤)

公園で真っ赤な椿が満開です、と言うと、いったいどこに咲いているの?と思われる方が殆どでしょう。さてその答えは? 右の写真は画面が傾いているわけではありません。そう、ここは公園の裏山です。椿と聞くとご家庭の庭できちんと剪定された中低木の姿を想像しがちですが、元来は樹高20mにもなる高木で、裏山の椿も勢い良く天に向かって伸びています。椿の花は大変品種が多く、日本産の品種だけでも2000種以上あると言われています。椿が花木として鑑賞されるようになったのは鎌倉・室町時代からと言われており、椿の歴史は茶道の普及と大いに関係があります。学名は「カメリア・ジャポニカ」。日本に来た宣教師のカメリアがヨーロッパに持ち帰り19世紀には一大ブームになりました。フランス人のデュマ・フィスが書いた戯曲「椿姫」を元にイタリア人のベルディがオペラを作曲したのは有名ですね。花言葉は「理想の愛」、「謙遜」。皆さんも公園の裏山で理想の愛を見つけてください。

